

「被爆証言の会 山岡美知子さん」から  
講演をいただき、意見交換を行いました。

2024 ヒロシマ平和研修④



被爆証言の会「山岡美知子さん」から講演をいただき、山岡さんのお母さんや被爆者の方が体験したお話や、太平洋戦争当時の情勢や原子力・核の実相について学びました。広島に原爆が落とされた理由は、どのような影響や被害になるのかというアメリカの実験的要素が多かったことから、「戦争を終わらせるための投下」というのは綺麗ごとであることを学びました。また、原爆投下翌日の8月7日、広島市中心部は死体の山であり、橋や川は死体で埋め尽くされていて、あまりに凄惨な光景のためなかなか足を進められなかったことや、「水をあげたら死んでしまう」と言われていたため、水を求める人にも水をあげられない苦悩があったこと。道行く人を見殺しにしてしまった後悔から、長年被爆証言ができなかったが、事実を伝えるために苦しい思いをして立ち上がった被爆者の方の声など、生々しい体験談を聞き胸に刺さるものがありました。人が人でなくなるのが戦争であり、だからこそ戦争は起こしてはならない。核を無くすのは人の手でしか成しえず、そのために私たちにできることは何かを考えさせられました。

また、山岡さんから「戦争はなぜ無くならないのでしょうか？戦争が始まったらみなさんはどうしますか？」といった問題提起もいただき、参加者で議論を行ってきました。その後の意見交換では、「戦争が始まってしまったら、大人はみな加害者になり得る。軍需産業はそれだけ私たちの生活に密接に結びついている。」「台湾有事をはじめとした世界情勢に危機意識がないわけではないが、どこか遠くの地で起こることだというイメージがあった。危機意識はあるが、当事者意識がない。だから自分に引き寄せて考えることができないと感じた。」「正直、戦争について他人事だと感じてしまう瞬間はある。武器を持ってどちらかを叩いてしまったほうが、戦争が早く終結するのではと感情的に考えてしまうこともあった。」など、碑めぐりを通じて感じたことや、山岡さんの講演を聞き参加者自身が率直に感じたことが出されました。



戦争になると、私たちは被害者になるだけでなく、加害者にもなってしまいます。ヒロシマ平和研修で学んだことを各職場で展開し、私たち青年層から平和な社会の実現をめざし、平和運動を担う仲間をつくり出していきます！